

湘南慶育病院

朝比奈 瑤子 (リハビリテーション部 作業療法士 入職2年目)

功 績 作業療法士の朝比奈は、回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中後の重度麻痺と失語症を呈した患者さんに対し、Occupational Therapy Intervention Process Modelによる作業療法を展開し、その結果を、聖隷クリストファー大学の助教、当院作業療法科長の丸山や作業療法主任の廣瀬の指導を受けて、第19回神奈川県作業療法学会で発表したところ、最年少で「学会長賞」を受賞し、学術的貢献ならびに当院の知名度向上に貢献した功績。

推 薦 者 久保 雅昭 (リハビリテーション部 部長)

推 薦 理 由 当院リハビリテーション部の朝比奈瑤子 (作業療法士) が、回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中患者に対する、質の高い作業療法アプローチが実施できました。これは、養成校である大学から当院の新人研修プログラムにつながった好事例であり、今後もこのような人材育成を進めて参ります。質の高い作業療法実践の成果を出し、学術的な知見として、第19回神奈川県作業療法学会にて、最年少で「学会長」を受賞し、当院の知名度向上にもつながった事は、理事長賞に値するとし、推薦いたします。

内 容

当院リハビリテーション部の朝比奈瑤子 (作業療法士 入職2年目) が、回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中後の重度麻痺と失語症を呈した患者さんに対し、Occupational Therapy Intervention Process Model (OTIPM) による作業療法を展開したところ患者さんのニーズである母親役割の再獲得に繋がりました。

OTIPMは、作業療法の実践の質を高めるモデルです。これを現場の作業療法に取り入れることによって、きめ細やかな視点から患者さんを支援できる特徴があります。しかし、このOTIPMの評価や介入は専門的な内容のため、一定の研修が必要です。朝比奈は、自身の母校である聖隷クリストファー大学でOTIPMに関する教育を受け、当院の新人研修プログラムとしてOTIPMに関する研鑽を積んでいました (指導者: 廣瀬主任)。さらに、朝比奈は、OTIPMで使用するAssessment of Motor and Process Skillsという研修会に出張し、自己研鑽を積んでいました。これらの教育と自己研鑽の継続により、質の高い作業療法の実践につなげることができました。

実践の成果について、2023年11月15日に開催された第19回神奈川県作業療法学会で、当院リハビリテーション部の作業療法主任の廣瀬と作業療法科長の丸山、神経内科の椎橋医師、聖隷クリストファー大学の助教とともに演題を作成し、発表したところ (下記演題)、学会長賞を受賞し、学術的貢献ならびに当院の知名度向上に貢献しました。また、母校の聖隷クリストファー大学でも「卒業生の活躍」として、本受賞について大学広報のSNSで取り上げていただきました。

「母としての役割再獲得に向けOTIPMに基づき介入した重度上肢麻痺・失語症の事例」